

フィンランド教育視察報告

学校法人聖徳学園 理事長・学園長 伊藤 正徳

■フィンランド研修の目的

2025年9月7日から14日までの8日間の日程で、フィンランドのオウル市及びヘルシンキ市を訪問した。今回の教育視察のテーマは、フィンランドのICT教育、ウェルビーイングを主体とした教育、アクティブ・ラーニングの手法、職業教育という幅の広いものであり、それぞれが日本の教育に資するテーマである。

2025年まで8年連続で幸福度世界第1位のフィンランド¹。Well-beingを目的としている教育政策がそうした幸福度にかかわっている一方、かつてPISAで高い順位を誇っていたフィンランドの順位が下降し、その先進性は変化してきているとの指摘もある²。学校教育におけるICT活用の先進国ではあるが、2025年8月から小中学校でスマートフォンなどのモバイル端末の使用が原則禁止になるなどの新たな動きも始まっている。

本報告書では、こうした多面的な要素を持つフィンランドでの視察内容について、各参加者が分担して現場の視点から詳細に報告している。

■どれだけ沢山の方の想いが詰まっているのだろう

本報告書は、多くの方の想いが込められて刊行に至った。

まず、今回の参加者は、幼稚園・中学校・高等学校・専修学校各種学校から選考された。どの参加者も各学校を代表し、高い問題意識を有している意欲的なメンバーであった。普段なかなか交流する機会がない様々な校種の教員が「同じ釜の飯」を食べる事で、多くの情報交換を通して相互の認識を深めることができた。特にチームの和が素晴らしく、帰国後も様々な形で情報を共有して協力しあい、この報告書の作成にあたった。さらに現地では、幼稚園から大学までの現状を見る事で、ひとりの人間が教育によってどのように成長していくのか、広い視点から教育を考える機会にもなった。

私たち参加者のみならず、側面から支えていただいた多くの方のお力添えと研修への想いがあったことを忘れることはできない。研修地の選定から、充実した視察計画の策定と具現化、さらに現地での円滑な研修の遂行までご対応いただいた東京都私学財団の皆様、事前研修でフィンランドの教育の特色を教えていただいたヒルトゥネン・久美子さん、そして何よりも温かい歓迎と対応をしていただいたフィンランドのすべての学校・教育関係者に心より御礼申し上げたい。また、オウル市のアキコ・ハッシラさんには、通訳の業務のみならず、お子さんをフィンランドの教育で育てた保護者の視点からの貴重なお話もしていただいた。まるでチームの一員であるような献身的なご対応に深く感謝申し上げます。

■「百聞は一見にしかず」

首都ヘルシンキから飛行機で 1 時間余りのオウル市。日本の猛暑をよそに、小雨の降る中、肌寒さを感じつつ視察が開始された。その発展した ICT 産業から「北欧のシリコンバレー」とも呼ばれているオウル市では、先進的な教育施設、教育内容が推進されており、関係者の熱い想いと自負が伝わってきた。また、教育委員会の方に毎日同行していただき、視察のしめくくりには、一緒に総括のワークショップをしていただくなど素晴らしい対応をいただいた。

ヘルシンキ市では、ほとんどの学校が公立学校であるフィンランドの中で、数少ない私立学校を視察した。私はフィンランドの教育については、オウル市のような先進的教育のイメージを強く持っていた。しかし、こちらの学校では日本の教育に近い側面もあることが理解できた。両市の比較により、私がフィンランドの教育について、いかに狭い観点からしか見ていなかったことを痛感した。

■人生を豊かにするために学びがある

フィンランドでは、小学校入学前のプレスクールから大学院まで教育が無償で提供され、すべての子どもが平等に質の高い教育を受けることができる。さらに教師は修士号の取得が必須であり、それゆえ教師の裁量に任されるところも大きい。私が視察を通じて感じたのは、下記の点である。

- ①他者との比較や競争を学びの原動力にはせず、生徒の自主性を重視した柔軟な学び。そして、いつでも学ぶことができ、学び直しができる教育システム。
- ②学校施設における「集中できる場」と「リラックスできる場」の空間のメリハリとのデザインへのこだわり。
- ③教員の負担軽減ために学外の力を活用すること。「カハヴィタウコ」というコーヒー休憩に見られる教員を孤立させないためのコミュニケーションの推進。

以上の点から、フィンランドの教育が人生における Well-being。それも、漠然とした「幸福」ではなく、「心身ともに健やかで、自分らしく生きられること」を目指しており、国家としての理念のもとで教育へ投資がなされている事を強く感じた。私にとっても、法人としてこのままでいいのかと考える良い機会となった。

いささか、前置きが饒舌になってしまったが、本報告書が皆様にとって少しでも資する事があれば幸いである。

¹ World Happiness Report 2025, the UN Sustainable Development Solutions Network (SDSN) なお、2025 年版では社会的なつながり（特に親切、共有、信頼）がより中心的なテーマとして深く掘り下げられている。

² 臼井 俊『世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング』中公新書 244, 2025, pp11-19